

一般演題 VII 内 分 泌 (53~65)

53. RES-O-MAT T₃Kit の使用経験

千葉大学 放射線科

○清川 恒 館野 之男 有水 昇

〔目的〕 われわれは T₃ 試験用キット RES-O-MAT T₃kit (第1ラジオアイソトープ) を入手し、これについて 2, 3 の実験および臨床試験を行なったので報告する。

〔方法〕 ① 各キット間の値の変動, ②テクニクによる変動, ③ 保存凍結血清における変動, を同一人血清(甲状腺機能亢進症1例, 甲状腺機能低下症1例, 正常甲状腺2例)について検査した。また従来当教室で臨床に利用されている T₃ レジン 摂取率検査法(R. S. U. ダイナボット)との比較を行なった。

〔結果〕 この検査法の測定精度は良い結果を示した。血清の量も少なくて済む。手数は大体同じである。臨床例については R.S.U. と良い相関を示した。

55. Res-O-mat T₃ Kit 試用経験, ならびに本法と Tetrasorb 法, Triosorb 法との相関について

慈恵医科大学 放射線科 高橋貞一郎

中央検査部 ○今関 恵子 岩崎 恭子
陳 増子

目的および方法: 直接 thyroxin を測定する Tetrasorb 法は 甲状腺機能診断上優れた方法であることは論をまたない。しかし Triosorb 法, TBI 法も簡便で比較的高い情報が与えられるので捨て難い方法である。著者らは TBI 法に比し更に操作が簡便な Res-O-mat T₃ kit を用い基礎的検討を行なった。あわせて本検査法と Tetrasorb 法, Triosorb 法の相関を求めた。

結果: 本法は温度補正, 時間補正を必要とせず, 比較的正确な値を示し, 各方法との相関も高く, 一般検査室において, 充分使用しえる方法であると考えられた。

56. RES-O-MAT T-3 Kit による甲状腺機能検査法について

国立東京第二病院 ○与那原良夫 高原 淑子

桐村 浩 倉光 一郎

RES-O-MAT T-3 kit による T-3 test は, イオン交換樹脂(resin strip)を用いて未結合の ¹³¹I T-3 を除き, 患者血清と標準血清でそれぞれ摂取率を求め, さらに両摂取率の比から T-3 index を求め, これにより甲状腺機能を診断する方法である。

本法は 1) 固体化した resin strip のため洗滌操作を省きうる。2) 血清 0.5ml あればよい。3) incubation は室温で行なえ, 2時間も時間を大きく越えなければ特に正確である必要はない。4) ピペット操作は1回のみでよい。などの利点を有するとされている。

われわれは, 今回第一ラジオアイソトープ研究所より本 kit の提供を受け, 測定法および測定値に関して二, 三の検討を試みたので報告する。

57. Tetrasorb Kit による血中甲状腺ホルモンの定量

都立大久保病院 放射線科

木下 文雄 前川 全

54. Res-O-Mat T-3 Kit の試用経験

金沢大学 核医学診療科

○三嶋 勉 森 厚文 久田 欣一

甲状腺機能検査法として, 最近発表された Mallinckrodt 社の Res-O-mat T-3 kit 法は, RSU 法とは逆に未結合 ¹³¹I-T₃ を特製の固形化されたイオン交換樹脂(レジンストリップ)に吸着させて除去し, 患者血清の ¹³¹I-T₃ 摂取率を直接に求める。この値をコントロール血清の摂取率との比(T-3 binding capacity index: TBC Index)であらわすものである。TBC index は, 機能亢進症で低く, 低下症では高く, 正常は中間値を示すことになる。この方法は, RSU 法にくらべて手技が非常に簡略であり, 測定値の技術的誤差がほとんどない。温度補正が不要であり, 2時間の incubation であれば, あまり時間の正確を要しないなどが特徴である。今回, われわれは, Res-O-mat T-3 kit を甲状腺機能検査法として臨床的に使用してえたデータを RSU 法と比較検討するとともに, 日常検査法としての意味づけを発表する。